

こうとうの教育

新幼稚園教育要領を踏まえた

オリンピック・パラリンピック教育

平成30年4月より、新しい幼稚園教育要領が全面実施されました。今回の改訂では、10の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されました。この「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、特に5歳児後半に見られるようになる姿です。到達すべき目標ではないこと、個別に指導するものではないこと、全ての幼児に同じように見られるようになるものではないことなどに留意しながら、遊びを通して育んでいきます。ここでは、「江東区オリンピック・パラリンピック教育推進計画」に則った、3園の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた取組を紹介します。

① 東砂幼稚園

「城東公園マラソン」
・健康な心と体
・自立心
・社会生活との関わり など

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

② ひばり幼稚園

「インターナショナルデー」
・社会生活との関わり
・思考力の芽生え など

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

③ 豊洲幼稚園

「日本の伝統文化「お茶会」」
・社会生活との関わり
・豊かな感性と表現 など

〔幼児期の終わりまでに育ってほしい姿〕

本取組を「幼児期の終わりまで

機会となつていきます。遊びなどに触れる取組を行っています。こともたちは、行ったことのない国に思いを馳せたり、世界を身近に感じたりするなど、国際理解の原体験となる貴重な機会となつていきます。

本取組を「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」に照らし合わせてみると、主に「社会生活との関わり」「豊かな感性と表現」などが育まれていると言えます。

本取組を「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」に照らし合わせてみると、主に「社会生活との関わり」「豊かな感性と表現」などが育まれていると言えます。

本取組を「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」に照らし合わせてみると、主に「健康な心と体」「自立心」「社会生活との関わり」などが育まれていると言えます。

本取組を「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」に照らし合わせてみると、主に「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」などが育まれていると言えます。

本取組を「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」に照らし合わせてみると、主に「社会生活との関わり」「豊かな感性と表現」などが育まれていると言えます。

指導室
TEL (3647) 9179



3月のお茶会の様子

本取組を「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」に照らし合わせてみると、主に「社会生活との関わり」「豊かな感性と表現」などが育まれていると言えます。

本取組を「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」に照らし合わせてみると、主に「社会生活との関わり」「豊かな感性と表現」などが育まれていると言えます。

本取組を「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」に照らし合わせてみると、主に「社会生活との関わり」「豊かな感性と表現」などが育まれていると言えます。

本取組を「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」に照らし合わせてみると、主に「社会生活との関わり」「豊かな感性と表現」などが育まれていると言えます。

本取組を「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」に照らし合わせてみると、主に「社会生活との関わり」「豊かな感性と表現」などが育まれていると言えます。

江東区役所(夜間)
TEL (3647) 9111
FAX (3647) 9267

TEL (3647) 9179
FAX (3647) 6505

学校閉庁日を実施します
8月13日(月)～8月17日(金)

長時間にわたる過重労働がもたらす過労死や精神疾患の増加は、大きな社会問題となっております。国が実施した「教員の勤務実態調査」によると、教員の勤務時間は小学校・中学校いづれも10年前の同じ調査に比べて大幅に増加しており、小学校で約34%、中学校で約58%の教員が過労死ライン(月80時間以上)の時間外勤務相当に達しており、教育現場も例外ではない実態が明らかになりました。これは、近年の学校教育に対するニーズの変化や教育現場が抱える様々な課題が複雑化・多様化しており、学校に求められる役割が大きくなり続けていることが要因だと考えられています。

本区では、昨年12月に文部科学省が示した「学校における働き方改革に関する緊急対策」や東京都教育委員会策定の「学校における働き方改革推進プラン」を受けて、江東区教育委員会に「学校における働き方改革検討委員会」を設置し、区立幼稚園・小学校・中学校および義務教育学校における勤務環境の改善を検討しており、教職員が心身ともに健康な状態で子どもたちと向き合える学校づくりを目指して取り組んでいるところです。

こうした取り組みの一環として、今年度より区立幼稚園・小学校・中学校および義務教育学校では、夏季休業中の**平成30年8月13日(月)～8月17日(金)**を学校閉庁日とし、教員の休暇取得を促す期間としました。

学校閉庁日期間中は、基本的に教員は出勤しないため、次の点についてご留意ください。

- 学校園への問い合わせは学校閉庁日以外にお願いします
- 学校閉庁日では、学校施設の貸出し等は原則実施しません
- きつずクラブは通常どおり実施します

また、学校閉庁日の開始に合わせて、学校園に留守番電話を導入します。事故や災害等、学校への緊急連絡が必要な場合は、左記の問合せ先へお願いします。

区民の皆様には、「不便をおかけいたしますが、ご理解ご協力のほどお願いいたします。」

指導室(8時半～17時)
TEL (3647) 9179
FAX (3647) 6505

特色ある学校づくり等支援事業

「こどもたちに貴重な体験の場を」

区では、こどもたちの個性を生かし、生きる力を育むため、地域の特性や地域の人材を活用した魅力ある学校づくりを推進し、各幼稚園・小中学校・義務教育学校ごとの特色ある教育活動を積極的に支援しています。これらの取組は通常の授業では経験することができない体験学習の場となり、こどもたちにとって、貴重な経験となります。

「田んぼの学校」(深川小学校)



日本の食文化の理解と米作りの仕組みを学ぶため、深川小学校では、茨城県常総市の「水海道あすなろの里」で、稲作体験を行っています。

事前に田植え、稲刈りの仕方について学び、当日にはあすなろの里の職員から教えていただきながら、田植えと稲刈りの体験をさせていただきました。田植え体験では、苗の根元に小さな命があることや苗の植え方について学び、稲刈り体験では、米作りに欠かせない道具の説明を聞き、たくさんの稲を刈っていました。

また、脱穀も体験し、苗から自分たちになじみのある米になるまでの過程を経験しました。田植えや稲刈りを初めて体験する児童が多く、米作りに携わる農家の方々の苦勞を実感したようでした。体験後には学校で、農家の方々

の体験談などを通して学んだ工夫等をまとめた「田植え新聞」や「稲刈り新聞」を作りました。児童からは、「普段何気なく食べている米は苦勞して作られていることがわかった」「食べ物大切にしたいと思った」などの感想があげられました。また、今回刈り取った米を使用し、調理実習も行いました。

この体験学習では、普段当り前に食べている米が、たくさんの工夫と苦勞から作られていることを、身をもって実感する貴重な機会となりました。



▲力を合わせて腕いっぱい稲束を運びます

「味噌づくり体験学習」(第三亀戸中学校)



第三亀戸中学校では、食育の一環として、毎年一年生を対象として「佐野味噌醤油株式会社」の佐野正明氏の「指導のもと」味噌づくり体験学習を実施しています。

これらの取組は日本人が大切にしてきた味噌についての知識を深めることや味噌づくりの体

験を通して、素材や作り方も注目し、身近な食品を見直す契機とすることを目的としています。

体験学習の前半は、佐野氏より自身の禅の修行の体験を交えながらの味噌の歴史や食事の大切さ、味噌の素晴らしさについての講演がありました。後半は、大量の大豆をすり鉢ですりつぶし、塩、麹を混ぜ、樽に詰め、最後に空気を抜くために樽にボール状にした塊を投げつけるという作業があり、生徒達は嬉々として取り組んでいました。

生徒達からは、実際に味噌づくりを体験することで、「貴重な体験ができた」「自分たちが作った味噌が出来上がるのが楽しみ」といった感想が多くあげられています。

この体験学習は、第三亀戸中学校の伝統行事であり、その後今も回った味噌の定期的な手入れを継続することで、伝統食の奥深さを知ることができ、有意義な活動となっています。



▲ちょっとした工夫でこだわりの味噌づくり

「ミニミニ動物園」(枝川幼稚園)



枝川幼稚園では、小動物と触

れ合うことで、生き物をいとおしく思い、生命を大切にすることを育成することを目的として、ウサギやニワトリ等を園庭に放すことで一日だけ園庭を「ミニミニ動物園」としています。

はじめは、動物に触れることを怖がっていたこどもたちも、先生や飼育員と一緒に餌やりや、動物をひざに乗せることで、動物の温かさや、かわいさを感じ、生命を大切にすることが育まれています。

また、当日は枝川幼稚園の園児だけではなく、併設小学校の仲良し学級、保護者や弟妹、未就園児親子にも開放し、毎年楽しみにしてくれています。

「ミニミニ動物園」実施後は、触れ合った動物になりきって身体表現を楽しんだり、生活発表会における表現活動でも動物の動きを取り入れ、伸び伸びと表現する姿が見られています。

これらの自分自身で見て、触れ合った体験は、こどもたちの心を揺り動かし、豊かな表現につながるという成果が出ています。



▲動物の動きにびっくり、どきどき

図 学校支援課 学校支援係

TEL (3647) 9307 FAX (3647) 9053

学び続ける 熱い先生たち

教師が伸びると、こどもも伸びる 先生たちが自主的に学んでいる 3つの研修を紹介します。

東京都 教育研究員

区の推薦を基に都で選ばれた教員が集まり、1年間にわたり、各教科等の専門性をより一層高めていく制度です。
<小学校> 算数：八木 大貴 (南陽小) 理科：加藤 啓介 (明治小)
体育：松井 理明 (東陽小)
特別の教科 道徳：正木 綾 (水神小)
教育課題(オリンピック・パラリンピック教育)：池上 和孝 (四砂小)
特別支援学級：松山 純子 (枝川小)
<中学校> 外国語：水嶋 諒 (四砂中)

研究開発委員会

東京教師道場のリーダーや東京都教育研究員等を修了または、同等の力をもつ教員が自らのさらなる指導力の向上を目指し、各教科等について先進的な研究を行い、その成果を発表し全都へ広めていきます。
<幼稚園> 教育課題(就学前教育)：委員長 仙田 晃 (みどり幼)
<小学校> 社会：沢畑 慶介 (越中島小)
教育課題(情報教育)：松田 雄高 (亀高小)
<中学校> 数学：根本 正春 (大島中) 外国語：赤田 洋一 (大島中)
保健体育：内田 紘介 (有明中)

東京教師道場

2年間にわたり、各教科等での授業研究を通して、その専門性を高めていく制度です。「部員」は4年目から10年目の教員が対象で、授業力の向上を目指します。「リーダー」は、授業力に優れた教員が部員に対し指導・助言を行います。



[2年目] <リーダー>
生活：高藤 伸子 (二大小) 図工：吉田 和浩 (越中島小)
[2年目] <部員>
国語：山田 花那子 (豊洲西小)・大森 美佳 (深五中)
社会：松尾 美希 (豊洲北小)・青島 健太 (二砂中)
数学：芝崎 豊 (深二中) 理科：村田 淳悟 (深五中)

[2年目] <部員>
外国語活動：米山 繁 (南陽小) 美術：吉野 寿代 (有明中)
体育：安田 大吾 (東川小)・安部 圭右 (浅野小)
総合的な学習の時間：小野瀬 悠里 (八名川小)・澤 有紀子 (三大小)
中小路 聡江 (二亀小)

[1年目] <部員>
国語：木原 小百合 (豊洲北小)・寺内 彩奈 (深四中)・飯田 雅敏 (三亀中)
社会：川嶋 美文 (砂町小) 理科：内田 綾 (扇橋小)・尾内 紀之 (二南中)
音楽：牧野 由貴 (三砂小) 体育：満山 一平 (南陽小)
図工：内藤 豪 (有明小) 道徳：手塚 祐貴 (二亀中)
特別支援教育：洗川 優衣 (東砂小)